

個人質問

議会事務局 処理欄	令和4年5月17日 17時04分 受付
	質問順位 第9番

武豊町議会議長 石原 壽朗 殿

武豊町議会議員 石川 義治

一般質問の通告について

令和4年第2回武豊町議会定例会において、次のように質問したいから通告します。

質問事項	質問の要旨(具体的にご記入願います)
<p>1. インクルーシブ公園の導入について</p>	<p>【趣旨説明】</p> <p>インクルーシブとは、包み込む、包括的などという意味です。障がいのある人もない人も、分けずに包み込もうという概念であります。インクルーシブ公園というものが、2020年3月24日に、東京都世田谷区の都立砧(きぬた)公園に誕生いたしました。インクルーシブ公園とは、障がいのあるなしに関わらず、みんな一緒に遊べる公園のことです。例えば、車椅子に乗ったまま遊べる遊具や、身体を支えるためのしっかりした背もたれがついたブランコ、地面がゴムチップで舗装されていて、車椅子や歩行器でも移動しやすいなど、いろいろな事情を抱えたお子さんに対応した作りで、誰でも、みんな一緒に遊べる公園のことをいいます。アメリカやオーストラリアでは一般的だそうですが、日本には、こういった公園はなかったそうです。インクルーシブ公園は、その後、全国各地に、急速に拡大していると聞いています。</p> <p>住民に開かれた街の中にある公園は、幼児から高齢者まで多くの人々の憩いの場であり、子ども達の遊び場であります。四季折々を感じながら、たくさんの笑顔を見る事ができる公共の施設です。しかし、住民に開かれているとはいえ、誰もが皆楽しく遊べる公園とは言い切れません。「誰も」とは世代や国籍、物の価値感や身体面、特に障がいのある方やその保護者も含めるべきです。残念ながら武豊町の公園にはその視点が欠けていると感じます。障がいのある子もない子も皆と一緒に遊べ、誰も排除しない公園である事を願います。公園や施設は在れば良いのではなく、新しい価値を生む公園づくりが求められています。様々な違いを乗り越え、障がいの有無を問わず遊ぶ事は、子どもにとって大きな成長の場になり、保護者にとっても互いの違いを理解する事にもつながるはずです。「誰一人取り残さない」を掲げるSDGsの目標にも係わってきます。障がいのある子どもを抱える保護者の方から、「公園が使いづらい」「公園に行きにくい」という声を聴きます。一方、家族に障がい者がいない人のうち7割が「障がい者と関わる機会がない」「どう接していいかわからない」との報告もあります。子どもが遊びながら成長する場は公園ではないでしょうか。障がいのある子もない子も、みんなが遊べる公園が武豊町にも必要であると考えます。</p> <p>武豊町には、これまでに様々な公園が整備されてきました。昨年度には、武豊梨子ノ木第二土地区画整理事業で北山公園が、野菜茶業研究所跡地に進めている武豊中央公園整備事業では幼児広場が開園しました。北山公園にはターザンロープ、スプリング遊具、3連鉄棒が、中央公園には二連のすべり台やクライミングウォールがあるコンビネーション遊具が設置されました。そして、今年度は中央公園の子供・健康広場の整備工事が予定されていて、大型複合遊具の設置も予定されています。第6次武豊町総合計画では「集い憩える場づくり」として、「誰もが愛着をもって利用管理できる公園として整備・運営を進めます。」とあります。</p> <p>武豊町でも、是非、インクルーシブ公園を導入していただきたく、以下質問します。</p>

【質問事項】

- ① インクルーシブという考え方についての効果をどのように考えているのか
- ② 武豊町ではインクルーシブな考え方で整備された公園はこれまでにあるのか。
- ③ 中央公園で本年度設置が予定されている大型複合遊具をインクルーシブな遊具する考えはあるのか。
- ④ 武豊町がインクルーシブ公園を導入するにあたり、どのような課題が考えられるのか。
- ⑤ 既存の公園を更新時期に順次インクルーシブ公園にしてはどうか。
- ⑥ 武豊町のインクルーシブ公園導入・整備についての考えはどうか。